
葛藤についての物語2011

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

葛藤についての物語2011

【Nコード】

N3177Z

【作者名】

ごほんライズ

【あらすじ】

15禁です。児童ポルノ禁止法を意識して書いています。

作品を書くには葛藤が必要だ。これは小説に限らず、評論も音楽もマンガもだ。もっと言えば、アルバイトだってそうだ。

これでいいと満足した時点で仕事つうのは停滞する。努力しようとしなくなる。

しかし、不満だらけだと、仕事なんて続かない。辞職してしまう。ゆえに葛藤が必要である。満足し過ぎててもあかんし、不満たらたらでもあかん。

そんなわけであるが、アルバイトも十年以上やってると死にたくなってくる。アルバイトは短期労働という意味。だから低賃金。長期間やってればそりゃ自殺したくなってくる。オレは廃ビルの屋上に立った。下を見るとむちゃくちゃ怖い。怖くなると死ぬ気が失せる。つらいアルバイト生活、つらい執筆&読書に戻る気になる。死ぬよりましたとな。

オレは松屋のソーセージエッグ定食が好きだ。安いし旨いし栄養のバランスがよい。

しかしながら、アルバイトは低賃金だからあまり食べることができず悲惨。早く小説を所得にしないと通り魔をしてしまう。オレは包丁を握り締め、街をさまよった。イライラする。今日はクリスマスイブ。みんな笑顔だからイライラする。誰でもいいから刺したい。

前に女の子が立ってる。こんな寒いのにキャミとミニスカにブーツ。売春婦であろうか。「君、いくらだよ」「2000円だよ」「安っ」「だってまだ小学生だもん」これはまずい。買ったら犯罪者になつてまうじゃないか。「ねえ。おじさん。美代子を買ってよう。ねえねえ」ちびっこ売春婦がオレの腕をつかむ。「困ったなあ。刑務所に入るわけにやいかんのよ。作家になる予定じゃけん」「美代子だ

ってうちが貧しいから稼がないと困るのー」オレはわかったよ、じやあ家でお話しよう、そうすれば2000円あげると言った。女の子がわーいと言った。

やれやれ。アルバイトに2000円はでかいな。でも美代子ちゃんの貧困を見逃すこともできんし。

アパートに到着し、オレは美代子ちゃんとベッドに並ぶ。正直、つらい。アルバイトは低賃金過ぎて女の子に飢えてるから相手が小学生でも手が出そうなんである。

美代子ちゃんは全然気にせず、シュークリームを美味しそうに食べてる。オレにも娘がいればこれくらいの年齢じゃな。

窓の外で雪がしんと降る。ホワイトクリスマスか。彼女じゃないけど女の子と一緒に嬉しいな。あたたかな気持ちになる。

美代子ちゃんがエッチしてもいいよと言うが、お断りだ。犯罪はせん。オレは犯罪者になりたいわけではなく、プロ作家になりたいのだ。わかるかね諸君。

美代子ちゃんに何かプレゼントがあげたいなあ。でもなあ、カネないし。悩みでも聞いてあげつか。

「美代子ちゃんは何か悩みあるかい」「ある。父ちゃんが稼ぎが悪いと殴る蹴るすんの。アル中なの。母ちゃん出てっちゃった」「デープ過ぎて解決が困難。皆正社員制度の導入ほど困難。」

「じゃあ美代子ちゃん。オレを殴る蹴るしていいよ。クリスマスプレゼントだ」「本当に？やったー」美代子ちゃんがいつの間にか金属バットを握り締めてる。目がキラキラしてる。こいつマジだ。ギヤグが通用しねえ。

ポッコポッコにされたオレは半死の状態でベッドに横たわる。「痛いよう痛いよう」美代子ちゃんがオレに包帯を巻く。いなせなナイチンゲール。美代子ちゃんが、おじちゃんの悩みはなあにと言う。

「オレ、キスしたことないんだ」「じゃあ美代子がしてあげる。クリスマスプレゼントだよ」「だめ。犯罪です」美代子ちゃんが、あつそうだと、バッグから下敷きを取り出す。「おじちゃん。下敷き越しにキスしよう」「ええっ」「間接キッスだから逮捕されないよ」

なんだかよくわからんが、美代子ちゃんの唇が魅力的だったんで抵抗できず、下敷きを美代子ちゃんの顔とオレの顔の間に置き、キッスした。

ででーん。

「豆雄。アウト」窓が開き、警官が入ってきた。「ひっ」警官が棍棒で思い切りオレのけつを叩いた。「うぎゃあああああ」雪がしんしんと降る。

やっぱりクリスマスプレゼントてえのはオーソドックスな方がいい。何か考えないとな。

「おじちゃん仕事なにしてんの」「塾で講師してるよ。バイトだけど」「やったー美代子、わからないところあるの」美代子ちゃんがバッグからテキストを取り出した。「分数がよくわかんないの。難しいの」「ふうむ。確かに分数で日常会話にあんまり出てこないものね。ええとね、これは」

お。これはひよっとしてクリスマスプレゼントになってんじやないの。だって授業料とってないもん。一時間ほど勉強して、美代子がお礼に何か作ってあげると言った。冷蔵庫を開けて、貧弱な食材ですばらしい料理を作ってくれた。母親がいないから料理は得意らしい。お。これもクリスマスプレゼントになってるじゃん。あ。

「お父さん、今日ひとりだね。かわいそうだね」「父ちゃんいま刑務所だよ」「ええええ」「コンビニでうまい棒万引きしたん。今、美代子、保釈金稼いでんの。やな父ちゃんだけど父ちゃんは父ちゃんだからさ」

雪がしんしんと降る。あつ。窓の向こうから、あれは、サンタとト

ナカイだ！あいつらがこっちに向かってくる。

がしゃー！ーん。窓ガラスをぶち割り、ソリがすごいスピードで部屋ん中に飛び込む。

啞然とするオレたち。なんて乱暴な登場じゃい。

「メリークリスマス。おはようさん」

グラサンをかけた悪そうなサンタは袋からコンドームを出してオレに渡した。トナカイがニヤニヤしてる。イラつく顔だ。「君にはこれを」サンタは美代子ちゃんに袋を渡した。袋の中には黒いパンティと黒いブラが入ってた。トナカイたちがやらしく、くつくくくと笑う。

美代子ちゃんは、おじちゃんあたしならいいよおじちゃん優しいもんと目を潤ますが、オレは許さん。絶対に犯罪はいかん。オレはプロ作家になるのだ。

オレはメスのトナカイを捕まえて、泣きながら腰をマツハで振った。

「オレの恋人は小説家！オレの恋人は小説家！オレの恋人は小説家

！」

「ああん！お兄さんすごい！」

世界みんな、メリークリスマス。米兵もテロリストも今日だけはケンカをやめましょうぞっつ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3177z/>

葛藤についての物語2011

2011年12月11日01時54分発行